

前回は、サプライチェーンにおけるリスクが変化・多様化している様子を解説した。今回は、その背景について、上場企業を例として環境変化を確認し、調達側が留意すべき事項について解説する。供給側の方においては、日本を代表する大企業が置かれている状況について理解を深める機会になれば幸いである。

この内容は、22年4月4

プライム市場は、グロー

気候変動などの地球環境問題への配慮、人権の尊重、従業員の健康・労働環境への配慮や公正・適切な処遇、取引先との公正・適正な取引、自然災害等への危機管理など、サステナビリティを巡る課題への対応とその開示など、一段高い水準の対応を求めている。



永倉 由紀子（ながくら・ゆきこ）コンサルティング事業本部 GRCコンサルティング部 コンサルタント

調達側が留意すべき事項

サプライチェーンリスク(2)

日頃から開始された新しい市場区分における上場基準に含まれており、特に、PRISM上場企業に対しては、上場企業に注目し、対話を

日頃から開始された新しい市場区分における上場基準に含まれており、特に、PRISM上場企業に注目し、対話を

日頃から開始された新しい市場区分における上場基準に含まれており、特に、PRISM上場企業に注目し、対話を

日頃から開始された新しい市場区分における上場基準に含まれており、特に、PRISM上場企業に注目し、対話を

日頃から開始された新しい市場区分における上場基準に含まれており、特に、PRISM上場企業に注目し、対話を

日頃から開始された新しい市場区分における上場基準に含まれており、特に、PRISM上場企業に注目し、対話を

バルな投資家と建設的な対話ができる企業が求められるようになった。ESGを含むサステナビリティへの対応について、サプライチェーン全体の取り組みについて調査し、スコアという形で評価するようになったのである。

ここで調達側に留意していただきたいことは、アンケート回答を求められた供給側がそれをどのように受け止めるかという点である。供給側は、アンケート

